

京都を歩く
平安朝文学の舞台写真集（１）
in Kyoto



京都御所－清凉殿－



京都御所－清凉殿の御帳台－

浜床に纒縹縁（うんげんべり）の畳二枚を敷く。獅子と狛犬を置き帳が風に煽られるのを防いだ。



清涼殿の漢竹



清涼殿の呉竹



清涼殿

「清涼殿の丑寅の角の、北の隔てなる御障子は、荒海絵。生きたるものどものおそろしげなる手長・足長などをぞ描きたる。」（『枕草子』）

京都を歩く
平安朝文学の舞台写真
集（２）
in Kyoto



中宮定子鳥辺野陵



中宮定子鳥辺野陵

京都を歩く
平安朝文学の舞台写真集
(3)
in Kyoto



下鴨神社



下鴨神社－舞殿－

賀茂祭のとき勅使が御祭文を奏し舞人が東遊を舞う



東寺－五重塔－

羅城門の東、左京九条一坊に位置した。朱雀大路を挟んで対称な位置にあった西寺も同時に建立された。承和元年（834）に空海が初代長者に補任され、鎮護国家の修法と真言宗僧修学の道場となる。五重塔は天長3年（826）に弘法大師空海が造営に着工。現在の塔は四回の焼失をへて寛永21年（1644）徳川家光が寄進したもの。総高57m。我が国に現存する最高の塔。



北野天満宮



紫式部邸跡（現：盧山寺）



小野篁墓所

「篁塚は円塚、封土四尺、塚上一株の古松、千檀枝を交ふ。」（『京都名家墳墓録』）。



紫式部墓所①

紫式部の墓所に関する最古の文献記事は、『河海抄』（1346～1369）巻第一の「式部墓所在二 雲林院白毫院南一 小野篁墓の西なり。宇治宝蔵日記にも紫野に雲林院有よし見えたり」である。長元4年（1031）紫式部死去から『河海抄』成立まで約300年の隔たりがあるが、これを否定できる文献はない。「篁塚は円塚。（中略）紫式部墳は其西に位し、長円形東面す、南北三間、封土五尺」（『京都名家墳墓録』）。この墓所の位置が、火葬場か、火葬骨を埋めた所かは不明。



紫式部墓所②



一條第跡



『源氏物語』一夢浮橋の古蹟